



支援員養成講座4

発達障害と合理的配慮②

注意欠陥多動性障害(ADHD)



1



主な発達障害

学習障害(LD)

注意欠陥多動性障害(ADHD)

自閉症スペクトラム(ASD)



2



ADHDについて

DSM-5(2014年)では注意欠如・多動症

ICD-11(2018年)では注意欠如多動症

文部科学省の表記では、注意欠陥多動性障害



3



注意欠陥多動性障害(ADHD)

機能または発達を妨げるほどの、不注意と多動性ー衝動性、またそのいずれかの持続的な様式

不注意

集中力が続かない
気が散りやすい
忘れっぽい

など

多動性

じっとしていることが苦
手て、落ち着きがない
しゃべりすぎる

など

衝動性

思いついた行動につい
て、行ってもよいか考
える前に実行してしまう

など

日本精神神経学会(監修) 医学書院 DSM-4-TR・5精神疾患の診断統計マニュアル



4

環境の整備

刺激になるもの、気になるものをできるだけ少なくする

余計なものを置かない

黒板のある壁にいろ
んな掲示物を貼らない

時計は教室の後ろの壁に

本棚などはカーテンをつけて中
が見えないようにするなどして、
視覚的な刺激を少なくする。

5

環境の整備

座席の配慮

前の席や真ん中の席
(集中時間に合わせた働きかけを行いやすくなるため、
子どもの座席は一番前の先生の近くに) など)窓際の席は、外に目が行き、
気が散りやすくなるので避ける。隣の席の子ども、
班編制への配慮

6

環境の整備

板書、ノートの配慮

箇条書きで書く。

大切なキーワードだけを書く。

行の間隔を十分に空けて書く。

行の頭に印をつける。
 (○印をつけたり、星や花、動物なども
 チーフのカードを貼る。
 「先生が今説明しているのは○印のどこ
 らだよ」、「はい、★のところを見て」など)



7

環境の整備

待つ場面

ただ我慢させるのではなく、

- ・何のために待つのか、
- ・どれくらい待つのか

のような見通しをもたせることで、
 不安や嫌悪感を和らげることができる

何かやることを用意する。

(砂時計を見せて、
 「この砂が全部下に落ちたら先生に教えて」
 など、短時間で終わる、単純なもの)



8

環境の整備

子どもの集中時間に合わせた課題

45分間活動に参加させたい
 →5分しか集中できない子を45
 分集中させようとするのではなく、
 15分間の集中を3つ考える

集中できる時間内にできる
 課題内容や分量を考える

集中時間に合わせて言葉をかける、
 質問するなどして、注意のリセットを行う



9

環境の整備

活動エネルギーを使わせる工夫を

授業の前の休み時間に走る、
 鬼ごっこをするなどの十分な運動を、
 先生も一緒になって遊びの形態で行う

動いてもよい環境を作る

・教室の後ろから物を持ってきてもう
 ・プリントをみんなに配る、黒板を消す
 ・先生の手伝いをしてもらうなど、
 動いてもよい環境を作る。

子どもの状態が不安定なときは、
 用事を依頼して保健室に行かせる
 などとする。



10

ADHDと合理的配慮

「がんばりカード」を
 作成して活用

学習量の調整

情報提供や表現の場面で
 イラストを活用

「お話タイム」の時間を
 設定し、
 不安感把握と解消

国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベース



11

すぐにも実践可能な支援

- ・必要な物だけを机上に用意させる
- ・名前を呼んで、注意を引きつける
- ・約束事が守れたら、すぐに誉める
- ・「当たり前」のことも言葉で褒める
- ・子どもが話そうとしていることを補う
- ・教師のそばなど、座席を工夫をする
- ・守るべきルールを子どもと相談して決める



玉木宗久ら「LD研究」通常の学級におけるインストラクショナル・アダプテーションの実施可能性

12